

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラック宿院スタジオ		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～ 2025年 10月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～ 2025年 9月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	コミュニケーションスキルの向上が期待される。 言葉でお話をする事が難しい子どもに対してのアプローチ方法や言葉が話せても自分の気持ちや伝えたい事を言葉にする事が難しい子どもに対してのアプローチ方法をスタッフが身に付けている。	イラストや写真カードを使用出来る様に壁に貼っている。子どもに合わせたコミュニケーションツール(ひらがなボードやアプリ、ジェスチャー、筆談など)を設置している。 子どもの要求を引き出すためにスタッフが先に動くのではなく、待つ事も大事にしている。	その都度、ミーティングでスタッフに個々の対応方法を共有したり、勉強会をするなどして、周知している。
2	運動能力の向上や維持が期待できる。 運動をして体を動かす事により、筋力低下を防ぐことが出来る。 大縄跳びや竹馬、サーキット、跳び箱など、様々な運動活動に参加し、取り組む事で徐々に出来る様になる可能性がある。	無理に取り組むのではなく、子どもたちがやりたいと思えるような言葉かけをしている。 苦手意識のある子どもに対しては、自信を持てる様にスモールステップで、出来る事を繰り返し行っている。	運動担当のスタッフを中心に取り組んでいる為、支援方法にブレがない。 子どもたちが楽しいと思える様にゲーム感覚で取り組む事もある。
3	美術活動に取り組む事で、手の細かな動きや手先を使う機会が増え、道具の使い方も学べる。 お絵描きや工作など、好きな事を自由に作る事が出来る。	絵の具やお絵描きなど、苦手な子どもも無理なく、少しずつ興味を持って取り組める様になる。アプローチの仕方を模索しながら、子どもの好きなキャラクターなどを取り入れて、取り組みやすい様に工夫している。出来た成功体験を積み重ねている。	自由に制作出来る環境作りをしているため、のびのびと自由に取り組む事が出来る。 子どもの想像力や考える力を引き出せる様に自分で決めて取り組める様にしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	事業所内で過ごす事が基本の為、交流は出来ていない。	
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ラック宿院スタジオ

公表日 2025年 10月 18日

利用児童数 4名

回収数 3名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2	1			初回見学時、においが気になった。 子どもは気にしていない様だった。	療育後の掃除の時に再度換気をして、 においが気にならない様にしていきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。		1		2		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	3					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1		1	1		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1	1		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	1			1階が飲食店の為、火事が無いか心配になる事がある。	避難訓練を定期的に行っている事と避難経路が3か所ある為、きちんと対応出来る様に努めています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。		1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。		1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	3					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	3					
	29	事業所の支援に満足していますか。	3					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ラック宿院スタジオ		公表日		2025年 10月 18日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		運動活動と美術活動のスペースを区切っている。また、運動活動のスペースは広くし、体を動かしやすい様にしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4	赤色と青色のマットを使い、運動スペースは赤色、美術スペースは青色と視覚的に分かりやすくしている。事業所が2階にあり、エレベーターも無い。また、事業所内では、トイレとフロアの境目に段差がある。窓や玄関の施錠をして、児童が自分で開ける事が出来ない様に対策している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日、掃除をして清潔を保っている。ドアノブや机、おもちゃなどは、毎回消毒をしている。心地よく過ごせる様にカーテンで光を遮断している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		安心出来る場所が個々にある為、個室はいつでも使用する事が出来る様にしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		ミーティングの時に個別支援計画書の内容や面談での情報などをスタッフに周知している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者様の貴重なご意見を今後の支援や業務改善につながる様に努めている。また、スタッフ会議で周知している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		スタッフからの意見などは、ミーティングや療育後など、普段から話が出る様に心がけている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		外部研修や内部研修など、研修に参加し、職員のスキルアップの為、取り組んでいる。また、研修を受けたスタッフによる内部研修もおこなっている。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		作成をして、HPIに公表もしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		活動日誌には、児童の様子を細かく記入し、振り返った時に分かりやすくしている。また、ガイドラインに定められた通りに作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		モニタリングや支援者の所見を踏まえて検討している。その中で、児童にとって一番良い方向になる様に検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		ミーティングの際に個別支援計画書の計画を支援者と共有し、同じ方向性になる様にしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		児童の適応行動については、その都度支援者で共有する事が出来る様にしている。保護者様から発達検査の結果や学校の支援計画書等を提出して頂き、支援に活用させて頂いている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		色々な支援から分析し、支援内容を設定している。その都度、ミーティングで対応方法を模索したり、検討して対応している。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		美術活動と運動活動、それぞれリーダーがおり、そのスタッフ中心で決めている。スタッフからも意見があれば聞き入れている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		プログラムが固定化しない様に児童が発信した事に取り組んでいる。また、伝える力を身に付ける方向性の為、プログラムを決めてい	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別活動と集団活動があり、どちらも行っている。また、計画に関しては、どちらも含めて作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日、ミーティングを行い、個々の注意点や支援内容を確認している。その日の児童の状況に応じて対応出来る様にスタッフ間で連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後に振り返りが出来ない場合は、次の日に必ず行い、気づきや変化、様子などを共有し、次の支援に繋げている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		支援終了後に日々の支援や子どもの様子に関して記録をとっています。ヒヤリハットに関しては、必ずスタッフ全員共有出来る様に周知している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		モニタリングの実施、計画の見直しなど、6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。モニタリングでは、評価時期までの様子や目標の達成度の確認と今後の支援の方向性を検討している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		サービス担当者会議への参加は、児童発達管理責任者が参加している。日々の児童の様子を把握している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		必要に応じて、関係機関と連携する事が出来る様にしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		必要に応じて支援内容の情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		サービス担当者会議を行い、支援内容や児童の様子を共有している。また、相談支援員とも情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3		必要に応じて、行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3			機会があれば検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		毎回、申し送りの際にその日の様子をお伝えしている。また、自宅や学校での様子も共有しながら共通理解を持っている。申し送り以外に電話でも随時対応している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		法人内で開催する研修やセミナー開催のお知らせを配布している。		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	運営規定は、契約時に書面に沿って保護者様に説明を行っている。支援内容は、見学や体験利用時にも説明を行っている。利用者負担額の説明を行い、質問にも応じている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	児童の最善の利益を踏まえ、保護者様や児童のアセスメントをもとに支援の方向性や家族様や児童の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3	面談の時に必ず、説明を行い、支援内容の確認もしている。また、保護者様の同意も得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	連絡帳や電話、申し送りの際など、随時相談に応じている。また、必要な場合は、面談や電話など、保護者様の悩みやご相談が解決する様に対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3		父母会の活動や保護者会等の交流の機会は、今後検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	相談や申し入れがあった時には、迅速に聞き取りを行い、適切な対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	毎月、事業所で行う、美術活動のスケジュール表を保護者様へお渡ししている。「まーふら通信」を保護者様に配布をして、法人内の様子や情報提供を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	個人情報に関しては、鍵付きの書庫に保管している。個人情報の取扱いに関しては、スタッフ間で共有している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	障害のある子どもに関しては、意思の疎通や情報伝達の為に写真カードやイラストカードなど、個々に合わせて対応している。保護者様とは、日々の連絡帳や申し送りの時に直接お話をしたり、電話でも対応をしている。その方に合わせた対応をしている。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		機会があれば検討していきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	各種、マニュアルを作成し、毎年職員全員は内容の確認を行っている。また、避難訓練の取り組み内容に関しては、SNSなどで様子をお伝えしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	非常災害時や感染症の発生に備え、業務継続計画（BCP）を策定している。また、避難訓練に関しては、地震・津波と火災訓練を年3回程、取り組んでいる。訓練は様々な災害を想定し、発生状況を具体的に想定して取り組んでいる。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	契約時に服薬、てんかん発作、アレルギーなど聞き取りをして子どもの状況や対応などを確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	食物アレルギーについては、医師の指示書に基づいて対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	安全管理マニュアルを作成し、定期的な点検や訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	見学や体験会の時に部屋の設備に関しても説明を行い、周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	ヒヤリハットは、発見したスタッフが記録をしている。また、その日か次の日に必ず、スタッフで共有し、再発防止に努めている。原因を分析し、日々の支援に活かしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	研修を実施している。	

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1	2	該当児童なし	
----	--	---	---	--------	--